

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 1 月 25 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系:約2.0m <sup>3</sup> /h	18.7	105.0 kPa abs	A系: 0.06 vol%
		給水系:約2.5 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系:約3.6m <sup>3</sup> /h	31.8	7.60 kPa g	A系: 0.05 vol%
		給水系:約2.0 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系:約3.5m <sup>3</sup> /h	31.7	0.28 kPa g	A系: 0.18 vol%
		給水系:約2.0 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.17 vol%

\* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (1/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	10.5
2号機	循環冷却システム	運転中	12.5
3号機	循環冷却システム	運転中	10.3
4号機	循環冷却システム	運転中	21

\* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【1号機】・1/24 13:54~14:22 使用済燃料プールのスキマサージタンクに消防ポンプ車により水を補給するため、使用済燃料プール代替冷却系を停止。なお、運転再開時の使用済燃料プール温度は、冷却停止時の 10.0℃のままで変化なし。(使用済燃料プールのスキマサージタンクに水を補給する際は、通常、ろ過水配管から水を補給するが、1/19 発生したろ過水配管ヘッダに取り付けられた弁からの漏えいにより、ろ過水配管元弁を閉止しているため、消防ポンプ車を用いてスキマサージタンクへ水の補給を実施。)

また、消防ポンプ車によるスキマサージタンクへの水の補給時に、原子炉建屋大物搬入口内の補給配管フランジ部より補給水(ろ過水)が漏えい。漏えい量は約2リットル(約2m×1m×深さ微小)であり、スキマサージタンクへ水の補給を停止することにより漏えいは停止。1/25、漏えい箇所のガスケット交換を実施。

・1/25 14:42~15:05 使用済燃料プールのスキマサージタンクに消防ポンプ車により水を補給するため、使用済燃料プール代替冷却系を停止。なお、運転再開時の使用済燃料プール温度は、冷却停止時の 10.5℃のままで変化なし。消防ポンプ車によるスキマサージタンクへの水の補給時に、漏えいが確認された(1/24)箇所も異常がないことを確認。

【3号機】・1/28~ 鉄骨トラスがれき撤去作業に干渉する鉄骨がれきを先行して撤去することに伴い、2/1 まで使用済燃料プール代替冷却系を停止予定。使用済燃料プール水温は 10.3℃(1/25 11:00 時点)であり、冷却系停止時のプール水温度上昇率評価は 0.157℃/hで、停止中のプール水温上昇は約 17℃と評価されることから、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、問題ない。なお、がれき撤去作業は、夜間は実施しないことから、使用済燃料プール代替冷却系を起動予定。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	1/24 11:03 ~ 移送実施中

・H25/1/28~ 5・6号機屋外トレンチについて、仮設タンクへの移送を開始予定(適宜実施)。

#### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (1/25 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/1/15 9:00 第二セシウム吸着装置(サリー)のフィルタ洗浄のため、同装置を停止。その後、配管部等の健全性確認を目的とした検査(非破壊検査)を実施。
- ・H25/1/22 10:37 第二セシウム吸着装置(サリー)の停止に伴い、タービン建屋の水位の状況等を踏まえて、セシウム吸着装置を起動。同日 11:15、定常流量に到達。
- ・H25/1/23 第二セシウム吸着装置(サリー)の配管部等の健全性確認の検査(非破壊検査)が完了。
- ・H25/1/24 11:28 第二セシウム吸着装置(サリー)を起動。同日 12:07(\*)、定常流量に到達。第二セシウム吸着装置(サリー)の起動に伴い、同日 12:30、セシウム吸着装置を停止。

(\*) 第二セシウム吸着装置(サリー)における定常流量に到達した時間を、1/24 12:17 と記載しておりましたが、正しくは 1/24 12:07、定常流量に到達、となりますので訂正させていただきます。

- ・H25/1/24 15:10 除染装置薬液タンク水張り配管フランジ部(レジャーサのタンク側フランジ部)のガスケットを交換後、消火栓水(ろ過水)によるリークチェックを行っていたところ、当該レジャーサからろ過水が漏えいしていることを当社社員が発見。その後、消火栓元弁の閉止により漏えいは停止。なお、漏えい量は約 20 リットル(約3m×約3m×深さ約2mm)であり、漏えい水は薬液タンクの堰内に留まっている。また、当該レジャーサに割れが確認されており、保温が無かったことから、凍結して割れが入ったものと推定。今後、当該レジャーサを補修するとともに、保温材取付を実施する予定。

#### <5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/1/19 13:15 旧水処理建屋内に設置している使用済燃料プール水補給用ろ過水ヘッダの弁本体よりろ過水が霧状に漏えいしていることを当社社員が発見。漏れた水の範囲は、発見時、約1m×約1mで建屋の中にとどまっており、建屋外への漏えいはない。漏えい停止に向けた対応として、ろ過水配管上流側の弁を閉めたことにより、1秒に2滴ほどの漏えい量となった。また、漏えい箇所である、ろ過水ヘッダの弁本体を確認したところ、弁本体に亀裂が生じていることを確認。  
その後の調査の結果、当該弁は建屋内に設置されているものの、震災の影響による建屋外壁等の破損により設置環境が屋外と同等になっていること、また、当該弁および当該弁付近の配管に保温材が敷設されていなかったことから、配管内の水の凍結による膨張により、弁本体の破損に至ったものと推定。当該弁および当該弁が設置されている配管は、今後使用する予定がないことから、当該弁を取り外して上流側のフランジに閉止板取付を実施するとともに、凍結防止のため保温材取付を実施。これにより水の滴下は停止。今後、当該弁の状況を確認し、同建屋内の弁への保温材取付を実施する予定。なお、使用済燃料プールへの水補給には影響なし。
- ・H25/1/27 2号機トラス室調査を実施するにあたり、原子炉建屋1階の床穿孔作業を実施予定。
- ・H25/1/28～ 1号機復水貯蔵タンク(CST)の復旧の一環として、CST内に貯蔵されている水を1号機廃棄物処理建屋へ移送予定。(各号機原子炉注水系の信頼性向上の一環として、現状の処理水バッファタンクからCSTを使用する運用に変更していく予定としている)。
- ・H25/1/28 所内電源停止作業に伴い、共用プール冷却浄化系を停止予定。なお、共用プール水温は 14.2℃(1/25 15:00 時点)であり、冷却浄化系停止時のプール水温度上昇率評価は 0.228℃/hで、停止中のプール水温上昇は約 0.7℃と評価されることから、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、問題ない。

以上